



2008年5月12日

フリースケール・セミコンダクタ・ジャパン株式会社
富士通マイクロエレクトロニクス株式会社
株式会社アルファシステムズ
(証券コード:4719 東証第一部)

**フリースケール、富士通マイクロエレクトロニクス、アルファシステムズ、
DLNAガイドライン対応リアルタイム・トランスコード機能付き
デジタル・メディア・サーバ開発プラットフォームを提供**

～第11回 組込みシステム開発技術展(ESEC)
フリースケールとアルファシステムズのブースにてデモンストレーションを実施～

フリースケール・セミコンダクタ、富士通マイクロエレクトロニクス株式会社(本社:東京都新宿区西新宿2-7-1、代表取締役社長:岡田晴基)、株式会社アルファシステムズ(本社:東京都渋谷区渋谷2-17-5、代表取締役社長:池田直明)は、デジタルAV機器メーカーやPC周辺機器メーカー向けに、映像コンテンツのリアルタイムでのトランスコード(変換)を可能とする、DLNAガイドライン(注1)に対応したデジタル・メディア・サーバ(DMS:注2)の開発プラットフォーム(開発環境)(注3)を共同開発しました。

この開発プラットフォームは、2008年5月14日より東京ビッグサイトで開催される「第11回組込みシステム開発技術展(ESEC)」にてデモンストレーションします。

映像や音声などのさまざまなコンテンツを蓄積し、家庭内の通信ネットワーク(家庭内LAN)に接続された各部屋の機器にそのコンテンツを配信するホームサーバの市場は、AVコンテンツを取り扱うデジタルAV機器間の相互接続の標準仕様であるDLNAガイドラインの浸透により、今後、拡大することが見込まれています。デジタルAV機器メーカーやPC周辺機器メーカー各社においては、DLNAガイドラインに対応したホームサーバ製品を早期開発することが課題となっています。

映像などのコンテンツを再生・視聴するデジタルAV機器であるデジタル・メディア・プレーヤ(DMP:注4)は、高解像度に対応したデジタル・テレビ(HDTV)、画面サイズの小さなポータブル・メディア・プレーヤなどタイプにより表示する解像度やフォーマットが異なります。このため、さまざまな形式の映像コンテンツを家庭内で一元管理するDMSはDMPIにあわせ映像コンテンツをトランスコードし配信することが必要です。また、家庭内のネットワーク容量は限られているため、映像コンテンツの伝送のためには高いデータ圧縮をすることも必要です。

今回3社より提供するDMSの開発プラットフォームは、こうした課題を解決します。デジタルAV機器メーカーやPC周辺機器メーカーは、この開発プラットフォームを活用することにより、DLNAガイドラインに対応し、かつ、MPEG-2 HD (High Definition)の映像コンテンツをより圧縮



率が高い H.264 HD または H.264 SD (Standard Definition)フォーマットへリアルタイムにトランスコードし保存・配信する DMS の早期開発を実現します。

エンドユーザーは、本開発プラットフォームをもとに開発された DMS があれば、リビングにある HDD レコーダに録画した HD 解像度の地上デジタル放送のリッチ・コンテンツを、SD 解像度にてお風呂テレビで視聴するといったことができるようになります。また、録画時に HDD 等の保存容量を有効に活用することも可能です。

【DMS 開発プラットフォームについて】

今回発表した開発プラットフォームは、フリースケールの高速・高機能な通信プロセッサ「PowerQUICC II Pro」と、富士通マイクロエレクトロニクスの MPEG-2 から H.264 への高効率な映像圧縮をリアルタイムに行なうトランスコーダ LSI「MB86H52」を搭載し、アルファシステムズの DLNA ガイドライン v1.5 に準拠した DMS アプリケーション「ADMS」を実装しています。

フリースケールの通信プロセッサ「PowerQUICC II Pro」を搭載したリファレンス・ボード「MPC8349E-mITXE」は、ギガビットの LAN スイッチ、USB ハブ、ハードディスク・コントローラをシングル・ボードに搭載した、次世代ホームネットワーク機器向けリファレンス・ボードです。「PowerQUICC II Pro」通信プロセッサは Power Architecture™テクノロジーに基づく e300 コア(動作周波数 533MHz)にギガビット・イーサネット、セキュリティ・エンジン等を集積した、高性能・高機能ながら低価格な SoC プロセッサです。

富士通マイクロエレクトロニクスはフルHD(1,920ドット x 1,080ライン)のMPEG-2映像データをH.264映像データに変換するトランスコーダLSI「MB86H52」、およびその開発キットである「MB86H52-RB」を提供します。「MB86H52」は株式会社富士通研究所(注5)独自の画質技術により、入力されたMPEG-2映像データの画質を維持しながら、H.264映像データにトランスコードすることが可能です。開発キット「MB86H52-RB」はPCIブリッジを搭載しており、PCIバスからのMPEG-2およびH.264ストリームの入出力が可能です。またデコードされたベースバンド映像音声のHDMI出力や、HDMI入力からの映像音声をH.264にエンコードできます。

アルファシステムズのDMSアプリケーション「ADMS」は、標準化団体であるDLNA (Digital Living Network Alliance) ガイドラインv1.5 に準拠したミドルウェアスタック「[alpha Media Link SDK](#)」に含まれるAPIを用いて開発されています。開発者はAPIを用いることで、DLNAガイドラインに対応した様々なデジタルAV機器と相互接続可能なホームネットワーク機器を開発できます。

【ESEC2008 でのデモンストレーションについて】

フリースケールとアルファシステムズは、2008年5月14日から東京ビッグサイトで開催される「第11回組込みシステム開発技術展(ESEC)」における両社のブースにおいて、今回開発したリアルタイム・トランスコード機能付きデジタル・メディア・サーバの開発プラットフォームを用いたデモを行う予定です。MPEG-2 HD から H.264 へのリアルタイム・トランスコード、ならびに MPEG-2 HD のまま HDTV へ配信するマルチ・ストリーミングのデモを行う予定です。

- フリースケール・ジャパン ブース： 東 30-50
- アルファシステムズ ブース : 東 28-15

【注釈】



(注 1) DLNA (Digital Living Network Alliance) ガイドライン:

家電や PC、モバイル機器間の相互接続性を実現するための標準化団体である DLNA が策定した機器間で共通化すべきフォーマットや接続手順などの仕様。

(注 2) デジタル・メディア・サーバ(DMS:Digital Media Server):

DLNA ガイドラインで規定されている、コンテンツを保存・配信するデバイス。ハードディスク・レコーダやパソコンなどが該当。

(注 3) 開発プラットフォーム:

製品を開発する際に必要となるハードウェア、ソフトウェアで構成されるベースモジュール。製品の早期開発を容易に実現させるための開発環境。必要に応じて部品や機能を追加することが可能。

(注 4) デジタル・メディア・プレーヤ(DMP:Digital Media Player):

DLNA ガイドラインで規定されている、コンテンツを再生するデバイス。デジタル・テレビやパソコン、オーディオ・システムなどが該当。

(注 5) 株式会社富士通研究所: 代表取締役社長 村野和雄、本社 神奈川県川崎市。

フreescale・セミコンダクタについて

フreescale・セミコンダクタ・インクは、自動車用、民生用、産業用、ネットワーキングおよびワイヤレス・マーケット向け組み込み用半導体のデザインと製造の世界的リーダーです。フreescaleは、テキサス州オースチンを本拠地に、世界30カ国以上の国で、半導体のデザイン、研究開発、製造ならびに営業活動を行っています。フreescaleは世界的な大手半導体メーカーです。2007年度の売上高は57億ドル(USD)でした。詳細は、<http://www.freescale.com>(英語)、または<http://www.freescale.co.jp/>(日本語)をご覧ください。

富士通マイクロエレクトロニクス株式会社について

富士通マイクロエレクトロニクス株式会社(FML)は、ASIC/COT、ASSP および電源 IC、フラッシュメモリなどの LSI を通じて、お客様の多様なニーズに対し高信頼かつ最適なソリューションを提供する LSI 専門メーカーです。画像、無線、セキュリティ分野などを中心に幅広いアプリケーションで実績を誇る一方、低消費電力化を推し進め、環境課題にも重点的に取り組んでおります。

2008年3月21日に富士通株式会社の子会社として設立しました。

東京都新宿区に本社を置き、国内はもとより米州、欧州、アジア地域で開発および販売の拠点をもち、グローバルに活動しております。

ホームページ: <http://jp.fujitsu.com/fml/>

株式会社アルファシステムズについて

アルファシステムズは、“通信専門のシステムクリエイター”として1972年の創業以来一貫して基幹系通信システムのソフトウェア開発を中心とした事業を展開してきました。

主幹業務である通信システムのソフトウェア開発で培った技術力を活かし、DLNA対応SDK「alpha Media Link SDK」とソフトウェア受託開発サービスを合わせて提供しております。

詳細は、<http://www.alpha.co.jp/>

報道関係者からのお問い合わせ先:



- フリースケール・セミコンダクタ・ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーション本部
谷川 雅子
Tel: 03-5437-9128
Email: rtty559@freescale.com

- 富士通マイクロエレクトロニクス株式会社
富士通株式会社 広報 IR 室 福岡、梅野
Tel: 03-6252-2174 (直通)
お問い合わせフォーム: <http://pr.fujitsu.com/jp/news/q.html>

- 株式会社アルファシステムズ
経営企画本部 広報室
Tel: 03-3486-5111
Email: ir@alpha.co.jp

媒体読者からのお問い合わせ先:

- フリースケール・セミコンダクタ・ジャパン株式会社
テクニカルインフォメーションセンター
Tel: 0120-191014
Email: support.japan@freescale.com
- 富士通マイクロエレクトロニクス株式会社
TV/STB 事業部 マーケティング部
Tel: 03-5322-3354 (直通)
お問い合わせフォーム: <http://edevic.fujitsu.com/jp-qform.html>
- 株式会社アルファシステムズ
経営企画本部 技術推進部 alpha Media Link SDK 担当
Tel: 044-738-4126
Email: dlna@alpha.co.jp

Freescale ならびに Freescale のロゴマークは、フリースケール社の商標です。Power Architecture、Power.org ならびに Power、Power.org のロゴマーク、関連するマークは Power.org の商標であり、ライセンスのもとで使用されています。alpha Media Link は、株式会社アルファシステムズの商標です。文中に記載されている他社の製品名、サービス名等はそれぞれ各社の商標です。

©2008 フリースケール・セミコンダクタ・インク 富士通マイクロエレクトロニクス株式会社 株式会社アルファシステムズ